

青森県偕行会早めの花見

会長 稲村 孝司 陸自75

青森県偕行会は、桜の開花に合わせて例年より1週間早く4月22日、旧弘前偕行社庭園桜花の下で、紅白幕を張った花見を行った。

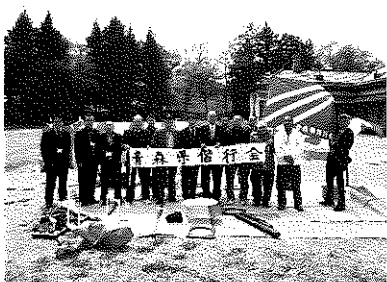
同所は昨年の参議院議員選挙から地元の投票所となった。国指定重要文化財「旧弘前偕行社」が投票所となることは全国的に珍しいと地元新聞で大きく報道された。翌23日は弘前市議会議員選挙の投票

日であり、当日はその準備があり、施設は全て選挙管理委員会貸し切りとなり、偕行会の利用も出来ず会場は庭園のみとなり、雨が降らないことを祈るばかりだった。

幸い20日から快晴が続き、万一の場合のテントも不要となり、午前9時から会員と偕行社職員二人の協力を得て会場を作り、午後零時半から「花見」を開始した。これまで3年間毎年計画したが、何時も降雨となり、施設内の集会所において行っていた。平成2年にはコロナ感染症防止対策から、大講堂で大テーブルに一人という花見だった。平成3年と昨年は小集会所で間隔を狭めて行えた。

参加者は、青森5連隊の記念日と重なるなどから青森市から2名のみで、津軽地方の13名、計15名となった。

例年参加していた弘前駐屯地司令は3月に着任されたばかりで、翌日弘前駐屯



青森県偕行会集合写真

地創立55周年記念日を控えていたことから案内しなかった。また、例年参加の弘前市防衛協会会長工藤武重氏にも、翌日の記念日において新司令萱沼文洋・佐紹介の重責があったことから案内しなかった。

花見は、先ず集合写真撮影となった。「青森県偕行会」の横幕と「会旗」を前に広げて撮った。桜花下での4年振りの念願が叶った。その後お花見弁当でビール、銘酒等を飲みながらの懇談が続いたが、折からの強風に見舞われ、降雨ではないものの会話が出来ず、急遽小集会所への場所替えとなった。幸い投票所の設営が完了し、偕行社の配慮で室内での継続となった。

近況報告では昨年からの変化等が報告され、約2時間の会食懇談を終えた。終了前に、「偕行社と陸修会の合同」による県偕行会の今後の運営を報告した。また、事務局長の後任として鎌田雅人会員を選任し了承された。元会計職種でパソコンも得意で、「助成費の交付に係る事務手続き」も任せられることとなった。

2時間に及んだ花見は、秋の総会での再会を期して旧弘前偕行社を後にした。

なお、翌日の弘前市議会議員選挙では野村太郎会員が4期目の当選を果たし、弘前駐屯地創立55周年記念行事も佐藤参議院議員始め市民約3千人が訪れ、観閲行進や模擬演習を楽しんだ。